



発行日：令和5年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第15回市民部会WGを開催しました！

第15回市民部会WGでは、昨年度の活動成果のふりかえりと今後の目標、バスツアーと公開講座の計画について意見交換を行いました。

今回からは新たに開催を予定する公開講座と、令和2年度から延期していたバスツアーの実施に向けて計画を具体化していきます。



日時：令和5年5月22日（月）13:30～15:30

会議場所：豊田商工会議所 206会議室

参加者：16名（内オンライン参加2名） *事務局含む

◆主な会議内容

1. コロナ禍における矢作川流域圏懇談会の開催方針

5類感染症移行後の対策（マスクの着用等）について、個人の判断を尊重することおよび事務局では可能な範囲での対応を実施することについて事務局より説明をしました。また、WGは今後もオンラインを併用することを周知しました。

2. 昨年度の活動成果と今年度の活動目標

令和4年度に実施した「流域全体に関わる課題をテーマとした公開講座」「山・川・海合同のバスツアーの企画・開催計画」「農業従事者や大学関係者など、新たなつながり」をふりかえりました。公開講座は、市民部会で流域に関わるテーマを設定（海の栄養塩）し、既に議論が進んでいる海部会に開催を依頼したほか、農業のテーマでは、国の施策を学ぶため、市民部会内で勉強会を開催しました。バスツアーは、過去の計画を踏襲し実施を試みましたが、コロナの拡大のため再延期となりました。新たなつながりについては、多摩川流域懇談会や大学関係者（教授・学生）に対して意見交換を行いました。

今後は、昨年度と同じく①流域全体に関わる課題をテーマとした公開講座の実施、②地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーの企画・開催、③農業従事者や大学関係者など新たなつながりの拡大 の3つを活動目標とします。

3. バスツアーの計画について

バスツアーは、昨年度計画した行程をベースに、計画策定・開催していくこととなりました。地域部会で出された候補地案をもとに、市民部会で9月13日（水）、14日（木）の2日間でバスツアーの計画を進めていきます。

4. 矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況

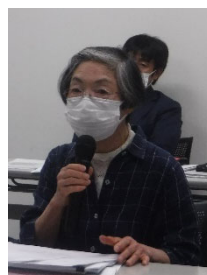
矢作川の流域治水対策に向けて、国や自治体が進めていく防災・減災やソフト対策の取り組みについてのロードマップを事務局から説明しました。

5. 公開講座の計画について

今年度の公開講座は、「有機農業」に関する講座の実施にむけて計画を進めていきます。そのほか、地域部会での開催案を基に流域連携に関するテーマで計2回の開催を目指します。

公開講座 ～農業をテーマとした公開講座～

- ・内容：ネオニコチノイド系農薬の問題や、有機農業による作物を学校給食に取り入れた事例として、農業をテーマに公開講座の開催を検討する。市民部会が主体となり、講座内容を具体化していく。



◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●今年度の活動目標について

- ・ 昨年度の活動成果として、市民部会で「農業」についての内部勉強会を実施し、認識の共有をはかった。市民部会から「三河湾の水産資源」「栄養循環・物質循環」の公開講座を提案し、海部会で公開講座を実施した。市民部会として企画・提案の役割が担えたと思う。また、公開講座を通して専門家や学生とのつながりができたことに加え、多摩川流域懇談会との意見交換の場を設けることができたのは大きな進捗だ。（事務局）
- ・ 中間報告会に向けて、10月までにバスツアー、公開講座とかをやるという理解で良いか。（山本薫）
 - ▶ 2023年の11月に中間報告をしたい。昨年は9月にバスツアーを計画していたので、今年も同じ時期を想定している。タイミングとしては11月までと考えているが、よろしいだろうか。勉強会も11月までにひと区切りできたら良いが、こだわらない。全体会議は2024年の11月に行う。（近藤）
 - ▶ 間延びしてしまうので、一度2023年11月に中間報告として状況報告と確認をしたい。（事務局）
 - ▶ 今年は中間報告に留めるというかたちだが、2024年11月の全体会議までの方針を確認しておきたい。（光岡）

●バスツアーの計画について

- ・ 11月の中間報告に向けて、9月に開催したい。（近藤）
 - ▶ まずは当初の計画（訪問先・経路）のままでいいと思う。各部会の確認をしなくてはならない。（井上）
 - ▶ 視察現場の担当者が年度をまたいで代わっているところがあるため、再確認が必要である。（近藤）
 - ▶ 事務局側は、訪問先や市民・地域部会座長等との調整のうえで日程を確定する。（事務局）
 - ▶ 昨年度は公的機関が対応可能な平日で、学生が夏休みである9月に開催したという経緯がある。（近藤）
 - ▶ 訪問先等との調整は事務局に委ね、日程は9月1日から候補に設定できればと思う。引き続き市民部会ではバスツアーの計画を進めていくということが良いかと思う。（光岡）
- ・ 市民部会からも見学箇所を提案すべきではないだろうか。（清水）
 - ▶ 見学箇所は各部会での提案をもとに決定している。現在は昨年度の計画をもとに行程を組んでいる。（事務局）
 - ▶ 候補地を変更したいという提案は、各部会で行うとよい。（光岡）

●流域治水プロジェクトについて

- ・ 流域の中で様々な事業を通して治水安全度を高めていくために、公共事業やソフト対策の取り組みを計画したロードマップがある。令和元年度の被災から始まっており、現在は県、国、市が一緒に取り組んでいくというスタートラインに立っている。随時進めていきたいと考えている。（事務局）
- ・ 豊橋河川事務所と自治体の実務レベルで進捗を確認したり、調整したりする場はできているのか。（近藤）
 - ▶ 現在はトップレベルで行っていて、これから実務レベルで進めていこうという動きになっている。（事務局）
 - ▶ 実務に関しては昭和40～50年代に愛知県が先進的に取り組んでいる。今回の流域治水は自治体だけではできない部分があって、山を含めると広大な範囲となるが、進めなければならない問題である。（近藤）
- ・ 菱池遊水地について、令和8年度までの事業と聞いているがそれまでに終わるという認識でよいか。（清水）
 - ▶ 個別には把握していないが、決まっているようならロードマップに反映したい。（事務局）
- ・ 流域治水の考え方として、山に降った雨が海に流れるまでの動態を把握することが重要だと考えている。その辺りは考慮されているのか。（井上）
 - ▶ 山の荒廃による水源涵養機能の低下は重要な問題と認識している。十分に調査をすれば検証はできるが、一般的な経験則で整理しているのが実態である。今後の課題だと考えている。（事務局）

●公開講座の計画について

- ・ 一昨年のマイクロプラスチックとネオニコチノイド系農薬の公開講座について、世の中の情勢の後押しもあり非常によかった。引き続きこの問題で1つはやりたい。前回の延長でテーマを設定すると面白いのではないか。（山本薫）
- ◆農業に関する公開講座について
 - ・ 去年の市民部会で取り上げた冬水田んぼの関係者と連絡を取っている。またオーガニック給食を推進している方や、先進的な取り組みを行っている自治体に話を聞く予定である。農薬を使わない農業というテーマの映画が上映され、まさに取り組むべき課題だと考えている。（沖）
 - ▶ 農協などでも、ネオニコチノイド系農薬の使用を徐々に控えていくと思われる。（光岡）
 - ▶ 地域の農家にとって、学校給食は要だと思う。関連する映画を視聴し地域の方から話をきくのはどうか。（山本薫）
 - ・ 具体的な講座のアイデアを持ち寄って、7月の市民部会で公開講座とバスツアーを具体化していきたい。（光岡）

今後の予定

■次回WG 日時：令和5年7月11日（火）13:30～15:30 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課（cbr-toyo-chousa1@milit.go.jp）までお送りください。



発行日：令和5年8月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第16回市民部会WGを開催しました！

第16回市民部会WGでは、公開講座・バスツアー・流域連携イベントについて、計画の内容やスケジュール等話し合いました。

日時：2023年7月11日（火）13:30～15:00

会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：14名（内オンライン参加4名） ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 公開講座について



今年度を実施する公開講座について、前回の市民部会WG及びミライ会議での協議を踏まえ、講演者の候補、講演方法、開催までのスケジュール等について話し合いました。話し合いから決定した主な事項を以下に記します。

【公開講座に関する主な決定事項】

- ・流域における山・川・海のつながりを講義できる富山和子氏に講演していただくことで計画を進める。富山氏に講演いただけるかどうかは8月末を目途に決定する。講演はリモート配信を予定する。
- ・富山氏の講演が難しい場合は、神田浩史氏に講演をお願いする。
- ・9/8の市民部会にて、富山和子氏の理論に関する勉強会及び公開講座の具体的な内容検討を行う。
- ・公開講座の日程が具体化したらチラシの作成と配布を行う。

2. バスツアーについて



バスツアーは、昨年度計画した工程をベースに、以下の方針で計画策定・実施していくことになりました。7月中旬に案内文を確定し、8月中旬までに参加者を決定する予定です。

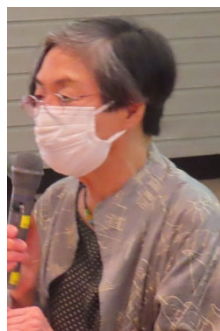
- ・実施日：2023年9月13日（水）・9月14日（木）
- ・対象・参加規模（予定）：矢作川流域圏懇談会メンバー＋次世代を担う大学生で最大50人を想定。
人数が予定を超過する場合は抽選とする。
- ・移動：マイクロバス2台（予定）
- ・見学場所：昨年度計画の施設をベースに実施。9/13は山及び川に関する訪問先、9/14は川及び海に関する訪問先を予定。

3. 流域連携イベントについて



今年度を実施する流域連携イベントのスケジュール、イベントでの流域圏懇談会のPR等について話し合いました。9～12月の流域連携イベントを以下に示しました。

- ・9月10日：矢作川感謝祭（豊田市）
- ・9月30日～10月1日：いい川づくりWS（仙台市）
- ・10月14日：三河湾大感謝祭（田原市）
- ・12月予定：中部のいい川づくりWS（矢作川・岡崎市）



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座について

- ・6/27のミライ会議にて、流域治水における俯瞰的な視野を持っている方に講演していただき、その後農業や防災など個別のテーマで話題提供していただける方にお話ししていただくという案が出ている。講演者の候補には、流域というテーマで富山和子氏と神田浩史氏、ネオニコフリー関係で小祝政明氏の名前があがっている。(石原)
- ・ミライ会議で流域全体を考えられる人は富山和子氏しかいないのではという話しが出たことから、講談社の出版部に連絡したところ、「富山先生が出かけていって講演することは難しいと思う。手紙は届けられる」との回答があった。そこで、富山和子氏宛ての手紙と流域圏懇談会の資料(10年誌、学童保育木質化・都市の木質化の事例集)を講談社に送った。何らかの形で富山氏あるいは講談社より連絡があると思う。(沖)
 - ▶最初は無理かなと思ったが、直接確認してからでないとおきらめがつかない。これが最後の富山和子氏の講演となるかもしれないし、実現させたい。(近藤)
 - ▶講談社に回答のリミットを聞かれたので2ヶ月とお答えしたため、9月ごろの回答となる。(沖)
- ・講談社より、富山氏の講演はリモートでスタジオ設置という形なら可能と言われている。東京におられるので、我々がセッティングに行くことになる。(沖)
 - ▶これまでの公開講座の実績から、富山氏のリモートによる講演は可能であり、やることにお互い大きな意味がある。スタジオは富山氏のご自宅でもよいし、別に設定してもよいと考える。(松沢)
 - ▶どこかのスタジオに送迎をするか、自宅でセットするかは確認して進めればよい。(近藤)
- ・富山氏に講演していただき、神田氏には聞き手として出ていただくのがよいと思う。富山氏の講演が難しい場合は、神田氏に講演していただくなど。10~12月を目標に、富山氏・神田氏への交渉を続けていくとよい。(近藤)
 - ▶富山氏の状況がはっきりしたら、神田氏に正式に公開講座への協力をお願いする。(光岡)
 - ▶神田氏には状況をお話ししておく。とりあえずはこの状態で1~2ヶ月待つということによりよいと思う。(近藤)
 - ▶富山氏に手紙を出したが、2ヶ月放置されるようであれば、講演は難しいと判断したい。(沖)
 - ▶富山氏にお願いする方向で、8月末を一応の区切りとして計画を具体化していく。富山氏が難しい場合は神田氏に正式にお願いする。あるいは、富山氏と神田氏の両方に出ていただくという方向で進めていく。(光岡)
- ・これまでの公開講座の経験から、チラシは公開講座の3ヵ月前あたりで確定させたい。(石原)
 - ▶参加者への呼びかけを考えると、8月いっぱいのところでは結論が出せるように進めていく。(光岡)
 - ▶11月は中間報告会があるので、その時にみなさんに情報提供していくのもよい。(蔭山)
- ・公開講座の準備を進めつつ、富山和子氏の勉強会をやりたい。併せて、流域での農業・林業の話し勉強も進めていくなど。松沢氏にプロデュースしてほしい。(近藤)
 - ▶富山氏の著書から総合的な説明はできると思う。その中で協議できる資料作成やプレゼンが可能。(松沢)
 - ▶富山氏の講演内容は、森林、川、農地、海、都市のつながりを軸とした流域連携の話しになると思う。そこから、有機農業などの各論に持っていくためのストーリーを組むことが重要と思う。(松沢)
 - ▶富山氏の理論は流域圏そのもので、流域圏懇談会の事例集などの視点と共通していると思う。富山氏の「生きている」シリーズは、川から海まで14年かけて完結されている。(沖)
 - ▶9/8の次回市民部会で、公開講座の内容検討と富山和子氏の勉強会を設定する。(光岡)

●バスツアーについて

- ・バスツアーへの参加者は8/20あたりには決定したい。大学生の参加は、愛知工業大学や人間環境大学などのつながりのある大学を対象に先生からお伝えいただくという形を想定している。(石原)

●流域連携イベントについて

- ・9月はイベントが集中する。矢作川流域圏懇談会をどのような形で紹介していくかについて協議したい。三河湾大感謝祭では流域圏懇談会としてブースを設置するので、展示内容の案などあれば提案をお願いする。(石原)
 - ▶流域に関するアンケートはよい取組と思う。6月の豪雨への意識など把握したい。(蔭山)
- ・学生たちと一緒に未来創造プログラムをやっている関係で、9/1~9/2に根羽村林業合宿をやる予定。続いて、9/7~9/8は同じ学生に声を掛けて、高山で林道を学ぶための合宿をやる予定。さらに、9/30~10/1は仙台で「いい川づくりWS」があり、学生も何人か連れていく予定。(近藤)
 - ▶9/1-2 根羽村の林業現場にて、木材の利用等について林業関係者に話しを聞くイベントを企画している。愛知県の大学の方々、特に建築を学んでいる方々に材料となる木材がどこから来て、どういうふうに使われているのかを見てもらいたい。(佐竹)
 - ▶事例集の学童保育、都市の木質化をやったことにより、こういう形で流域圏懇談会と学生がつながっていることを感じてほしい。(近藤)

今後の予定

■次回WG日時：令和5年9月8日(金) 15:00~17:00 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R5 市民部会編 vol.3



発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回市民部会WGを開催しました！

第17回市民部会WGでは、バスツアーの最終確認、公開講座の計画について話し合いました。

日時：2023年9月8日（金）15:00～17:10

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室

参加者：17名（内オンライン参加4名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. バスツアーの最終確認



バスツアーは、9/13・9/14で実施することになりました。参加メンバーは25名程度となる見込みで、マイクロバス1台で移動する計画です。視察場所の変更等はありません。

2. 公開講座の計画



今年度実施する公開講座は、富山和子先生の資源循環や土地機能、流域に対する視点をベースに展開していく計画です。そのため、富山先生の理論や考え方について整理した結果を事務局より説明し、どう流域に展開するか等について話し合いました。また、公開講座のシナリオについて、富山先生の状況に応じて3つのケースを想定し話し合いました。富山先生の状況が明らかになった時点で、具体的なシナリオ・計画を検討していきます。「富山理論の整理」における説明事項を以下に記しました。

【富山理論の整理】

- ・今、「富山理論」を語る意義 これからの流域視点の課題について
- ・森林1：森林は水を貯める、土壌をつくる 日本の“自然”を創ってきたのは森林
- ・森林2：森林を育成する 森林を育ててきたのは人間
- ・森林3：森林の危機 「森林の危機＝私たちの生活の危機」この意味を考える
- ・水田1：氾濫原に水田を開く 日本の文化は米づくりの上に築かれた
- ・水田2：水田の危機 水と土の分離
- ・河川・都市1：高水工事と都市化 川に洪水を押し込め、都市が拡大する
- ・河川・都市2：堤防の問題点 川と土地を切り離れた
- ・河川・都市3：都市による緑・土の破壊
- ・海1：海からの恵み
- ・海2：森林が魚を育てる
- ・海3：海をきれいにする
- ・日本の風景 日本は美しい水の国

3. 話題提供 農業に関するイベント案内



「Food for Children 愛知」の藤永伊久美氏より、農業に関する以下のイベントについて紹介いただいた。

- ・9/23：食から考える 子どもと地球の未来フェス（豊田市民文化会館）
- ・11/26：人生100年時代を楽しく生きる「つながる農業」講演会（日進市民会館 小ホール）



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座の計画

■富山理論の説明について

- ・森林の荒廃がどうして起きたのかというところの説明が重要。昭和 40 年代の燃料革命や拡大造林など時代の背景が複雑にからんでいる。木材の自由化だけで森林が荒廃したわけではなく、林業体制の問題などもある。(山本薫)
- ・「農業の近代化は、水田耕作における水と土の分離をまねいた」とあるが、森との分離もまねいた。(山本薫)
- ・「栄養ある水や土壌の供給がなくなると、化学肥料・農薬の使用が増える」というのは逆に、化学肥料・農薬が先行したことにより土壌や川の重要性が忘れられてしまったというのが現状と思う。(山本薫)
- ・多摩川の例のように、「堤防を造ることによって土地が安全になった」という勘違いがある。勘違いしているから都市化する。堤防を造ると堤防の中を流れる水しか処理できない。溢れた時のリスクは大きくなっている。(近藤)
- ・捨てなくても流れてしまうプラスチック問題を都市は考えなければいけない。流域から収奪して、いらぬものを捨てる。この問題を議論していくことで、流域圏懇談会としても勉強になると思う。(近藤)
- ・資料全体をみた時に、海の活動をどのように持っていくかという点が出てこない。海はどちらかという結果論として出てくる。3 部会に集まってもらった時に、海に関する内容が少々薄いと思う。(光岡)
- ▶ 海は大きな関係がある。最近わかってきたのが海底の湧水。海底の湧水はきれいでも栄養分がある。澄んだ豊かな湧水は水と緑と土のコラボレーションでもあり、海部会への問題提起にもなると思う。(井上)
- ・団粒構造という土の構造は、水持ちもよくて、水はけもよい。森や畑の土からもらった水で海も成り立つ。畑や森も地下の部分でコミュニケーションがある。それを上手く使うことが森づくりに役立つと思う。(井上)

■富山理論の展開について

- ・富山先生の講演は、流域視点での山・川・海の役割から林業者・漁業者・住民が考えなければいけない理念のような内容になると思われる。そこから農業問題に絞り込んでいくシナリオを考える必要がある。(松沢)
- ▶ 農業問題に落とし込む必要はない。流域全体の資源循環などを都市住民に知ってもらうことが重要。(山本薫)
- ▶ 富山先生の考え方や流域視点を広く知ってもらうほうが重要と思う。(光岡)
- ▶ 富山理論からいくと、流域環境管理や流域連携とかの落としにもっていくほうがやりやすいと思う。(松沢)
- ・講座をもつ理由を明確にして、「こういうことをお話ししていただきたい」という方向もある。なぜ今振り返るのか、この間我々は何をしてきたのか、そういうことが富山先生の関心の中には当然あると思う。(清水)
- ▶ 富山先生が登壇ではなくビデオメッセージ形式となった場合、我々が今問題としていること等への富山先生の考えを質問形式でインタビューする方法もある。テーマが絞れ、ディスカッションもやりやすくなる。(松沢)
- ▶ 50 年前から富山先生が問題提起されているが、今の社会は変わっていない。富山理論の本質的なところが都市の人に落とされていない。もう一度、今の時代に合わせてやるということが大事ではないかと思う。(近藤)
- ▶ 富山先生の登壇が万が一無理という場合でもやる価値は十分あると思っている。富山先生が登壇できない可能性が高いと思うので、それを前提に考えていくほうがよい。(近藤)
- ▶ 富山理論を語ることは大事。流域圏懇談会で流域連携を進めていく中でやる意義は大きいと思う。(松沢)
- ▶ 近藤さんが言われたように、富山先生が言われているのは当たり前理論。この「当たり前」は次世代に引き継いでいかなければいけない理論であり、知らない世代にしっかり伝えていかなければいけないと思う。(松沢)
- ・富山先生が関わってこなかった新しい問題が出てきている。富山先生がこれまで書かれてきたことをベースに、新しい視点で富山理論を考えていくことが大事と思う。(近藤)
- ・富山先生の「海は生きている」を読んだ時、流域圏懇談会の 10 年誌と方向性が似ていると感じた。まちの人たちは「いいとこどり」していることを気づいてもらうようにしていかなければいけないと思った。(沖)
- ・講談社の担当に、10 年誌、事例集、今回の富山理論の資料等を送ってきたが、講談社担当の態度が明らかに前向きな方向に変わってきた。我々の資料が人を動かしていると感じてうれしく思った。(沖)
- ・富山先生のお話しを聞くことは非常によいことだと感じた。知らないことを知ってもらうよい機会。そこから自分たちは何をすればよいのかを考えていくところまで持っていけると公開講座の意義が高くなっていくと思う。(藤永)

■公開講座の進め方等

- ・沖さんにかんばっていただいているが、富山先生に登壇いただくことはかなり難しいかと思う。この部分が決まらないと具体的なところはまだ進められないと思う。(光岡)
- ・「都市のいいとこどり」と書いた発端は、渋沢寿一氏のお話しから。富山先生と渋沢寿一氏の話しはつながると思う。今回の公開講座は富山先生だが、シリーズとして渋沢氏にも登壇していただきたいと思う。(近藤)
- ・富山先生が言われている理論をもう一度確認していくことと、それをベースにしてディスカッションすることが重要だと思っている。富山理論をベースにすれば、何らかの方向性が出てくるのではないかと期待している。(山本薫)
- ・富山先生のお話しの後でのディスカッションで、海の人、山の人、都市の人、農業者が何をすればよいのかを考えて、何か答えを出せるような機会になればよいと思う。(藤永)
- ・今、確実に動かなければいけない。動くためには、この理論をベースにしなが、自分たちの問題としていくことが必要と思う。(清水)

今後の予定

■中間報告会 日時：令和 5 年 11 月 13 日（月）14:00～ 場所：愛知県西三河総合庁舎 10 階大会

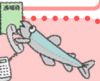
◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R5 市民部会発勉強会（バスツアー）



発行日：令和5年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆令和5年市民部会発 バスツアーを実施しました！

勉強会（バスツアー）は、新型コロナウイルス感染拡大により延期せざるを得ない状況が続いていましたが、令和5年になり、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことから、今回ようやく実施することができました。

山・川・海の各部会が持つ課題や問題点を共有し、共通認識のもとに流域連携を進めていくため、矢作川上流から下流、海までを視察し、各地点のテーマや課題等について話し合いました。

実施日：2023年9月13日（水）・14日（木）

参加者：延べ32名 ＊事務局含む



◆バスツアー実施工程

1日目：9月13日（水）

■集合：愛知環状鉄道新豊田駅西口 8:45

① 水源涵養モニタリング調査サイト（豊田市大洞町）10:00～11:10

解説者：蔵治光一郎氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

■昼食：奥矢作レクリエーションセンター会議室

② 奥矢作レクリエーションセンター会議室（恵那市串原）12:40～13:40

解説者：小林太郎氏（NPO 法人 奥矢作森林塾 代表）

③ 阿摺ダム（豊田市藤沢町）14:25～15:00

解説者：北井和人氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 副長）

塩原秀樹氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 主任）

神宮司優雅氏（中部電力㈱ 愛知水力センター 担当）

④ 阿摺ダム 下流部（豊田市藤沢町）15:05～15:45

解説者：山本敏哉氏（合同会社 TSJ ネイチャー）

■解散：愛知環状鉄道新豊田駅西口 16:30



2日目：9月14日（木）

■集合：愛知環状鉄道新豊田駅西口 8:45

⑤ アユのための再生事業（豊田市白浜町）9:05～ 9:40

解説者：安藤宏明氏（豊田市河川課・副課長）

上田裕敬氏（豊田市河川課 主査）

⑥ 鵜の首狭窄部周辺（豊田市秋葉町・野見町）9:55～10:30

解説者：国土交通省豊橋河川事務所

⑦ 家下川（豊田市柘塚東町）10:55～11:30

解説者：鶴田博嗣氏（豊田市博物館準備課 学芸員／家下川リバーキーパーズ）

佐藤邦彦氏（水土里ネット豊田 事務局長）

加藤敏明氏（水土里ネット豊田 工務係長）

■昼食：道の駅にしお岡の山

⑧ 矢作川浄化センター（西尾市港町）12:55～14:10

解説者：山口孝義氏（西三河建設事務所 都市施設整備課 課長補佐）

石田俊朗氏（愛知県水産試験場 漁場環境研究部長）

⑨ 東幡豆海岸（西尾市東幡豆町）14:55～15:40

解説者：石川金男氏（東幡豆漁業協同組合 組合長）

■解散：名鉄西尾線西尾駅東口 16:20

■解散：愛知環状鉄道新豊田駅西口 17:15



◆視察の状況

① 水源涵養モニタリング調査サイト（豊田市大洞町） 解説者：蔵治光一郎氏

2015年から東京大学が実施している水源涵養機能モニタリング調査を視察しました。間伐を実施した流域と間伐を実施していない流域における流量、土砂流出量、水質等の調査の目的、方法について解説していただきました。



気象観測施設。雨量・気温・湿度・風速・降雨水質等を測定している。



流域の最下流に設置された堰。水位が5分間隔で計測されており、時々刻々の流量データが取得されている。



2020年に間伐した森林。間伐割合は4割。倒した木は横に並べて置いている。伐り置きすることにより土壌が形成され保水力が高まる。



樹木に樹幹流採取器、林内に林内雨採取器を設置し、樹冠遮断量を観測している。



斜面からの土砂流出量の観測。土砂が箱に入り、水はホースを伝って容器に入る。



斜面からの流量の観測。雨どいを設置し、表面を流れた水が雨どいに入る。

② 奥矢作レクリエーションセンター会議室（恵那市串原） 解説者：小林太郎氏

「移住定住の促進と地域森林の再生」をテーマに、奥矢作森林塾の活動についてご講演いただきました。奥矢作森林塾では、「奥矢作の自然を活かす、楽しむ、そして繋ぐ。みんなでやろまいか！」を合言葉に、人口減少対策、森林の再生活動に取り組んでいます。

主な講演内容を以下に記しました。

【小林太郎氏の講演内容】

- ・ 恵南豪雨災害について
- ・ NPO 法人奥矢作森林塾の沿革・組織・取り組み事業
- ・ 主な地域課題 人口の減少・森林の荒廃
- ・ 人口減少対策 移住定住促進活動
- ・ 人口減少対策 古民家リフォーム塾の活動
- ・ 人口減少対策 就農支援
- ・ 人口減少対策 移住希望者への地域紹介
- ・ 森林の再生活動 NPO・森林組合・林業事業者による森林管理と林業施業
- ・ 森林の再生活動 担い手の育成
- ・ 森林の再生活動 森林資源の有効活用
- ・ 森林の再生活動 環境教育
- ・ その他活動 伝統文化・食の継続 <ヘボの養殖/中山太鼓・どんと焼き>
- ・ その他活動 自然を活かした体験プログラム <カヌー体験>



③ 阿摺ダム（豊田市藤沢町） 解説者：北井和人氏、塩原秀樹氏、神宮司優雅氏

愛知水力センターが保守管理している水力発電ダムである阿摺ダムを見学しました。見学にあたり、愛知水力センターより、阿摺ダムの堤体、取水口、魚道等について説明いただき、堤体周辺を歩きながらダム設備を見学しました。



④ 阿摺ダム下流部（豊田市藤沢町） 解説者：山本敏哉氏

アユの生息環境改善の実験が行われた阿摺ダム下流約700mの地点で、アユ生息環境の回復の状況、河川環境と底生生物の関係について説明していただきました。本地点は、アユの生息数が減少したため、2017年に新しい礫を設置し、アユの確認数が増加したことから、河床の攪乱の頻度がアユの生息数に影響することが示唆されました。同様に、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類の優占状況の変化も河床の攪乱と大きな関係があることが説明されました。



⑤ アユのための再生事業（豊田市白浜町） 解説者：安藤宏明氏・上田裕敬氏

アユ等の生息環境を再生するため、リブ・グローイン河岸（二段水制工）の整備を行ったエリアを視察しました。リブ・グローイン河岸は水際の凹凸により水流に変化を持たせることで生物の生息環境を多様化する工法です。このエリアでは、かつてオオカナダモの繁茂やカワヒバリガイの大量発生がありアユなどが減少しましたが、現在では、多くの水生生物が生息する環境に変化してきています。



⑥ 鵜の首狭窄部周辺（豊田市秋葉町・野見町） 解説者：国土交通省豊橋河川事務所

国土交通省では、豊田市街地の洪水被害を少なくするため、竜宮橋下流の狭窄部の川幅を100mから180mの広げ、水位低下をはかる事業を計画しています。鵜の首周辺を眺望しながら、国土交通省豊橋河川事務所より事業について説明していただきました。



⑦ 家下川（豊田市榑塚東町） 解説者：鶴田博嗣氏・佐藤邦彦氏・加藤敏明氏

家下川リバーキーパーズが取り組んでいる「魚のすむ水路を作ろう！計画」の現地を視察しました。この場所は、矢作川の河道内であったところを水田として干拓したところで、水田からの排水路を魚がすむ環境に改善していくことを目的に、各種取り組みが実施されています。取り組みとしては、コンクリートを剥がして人工の深みを作る、砂場をつくる、草を植える 等で、“生き物目線に立った川づくり”が進められています。



⑧ 矢作川浄化センター（西尾市港町） 解説者：山口孝義氏・石田俊朗氏

矢作川浄化センターで行っている窒素・リンの管理運転（＝社会実験）の方法、実施状況について、西三河建設事務所の山口孝義氏より説明していただきました。窒素・リンの放流によるアサリ・ノリへの効果について、愛知県水産試験場の石田俊朗氏より説明していただきました。その後、センター内の中央監視室を見学しました。

■水質保全と「豊かな海」の両立に向けた社会実験（山口孝義氏）

- ・ 社会実験の実施状況：2022年11月～2023年3月に実施し、今年度は2023年9月～2024年3月に実施している。
- ・ 栄養塩管理運転の計画：窒素は上限 20mg/l（基準 10mg/l 以下）、リンは上限 2mg/l（基準 1mg/l 以下）の計画で放流する。
- ・ 2022年度の栄養塩管理運転の状況：窒素の平均値は 10.5mg/l、リンの平均値は 1.28mg/l であった。
- ・ 入ってくる水の水質、放流水の水質は、中央監視室で管理している。放流水は矢作川に出ていく。



■2022年度の社会実験結果について（石田俊朗氏）

- ・ ノリへの効果：放流口に近い地点で色調が良好。2022年度は、2017-2021年度よりも色調が良好。
- ・ アサリへの効果：現存量は、2017-2021年度よりも2022年度の方が多く、放流口に近い地点で現存量が多くなった。肥満度は、放流口に遠い地点でも増大が確認された。
- ・ 栄養塩の放流増加によりアサリやノリに良い効果があった。今後は、漁業生産に必要な栄養塩濃度の検討を行っていく。



⑨ 東幡豆海岸（西尾市東幡豆町） 解説者：石川金男氏

東幡豆の海岸を散策しながら、アサリやハマグリ の現状、トンボロ干潟での潮干狩りの状況、干潟に生息する生物の状況などについて説明していただきました。



◆アンケート結果（抜粋）

- ・ 山から海まで連続的にみることができ、課題を山川海に関連付けて認識することができた。
- ・ 東海豪雨のような事態に備える良い機会になった。
- ・ 訪問先が多すぎて、十分な議論ができなかった。今後は見学場所を絞り、意見交換の時間を拡大してほしい。
- ・ 参加メンバーが固定化しているのが残念だ。矢作川流域の課題に取り組むためには、流域市民が参加しやすい仕組みを作るべき。
- ・ 沿岸漁場の栄養塩不足に対応する現場の説明が中心で、その他の課題に対する学びがほとんどなかった。公共機関の研究結果の情報共有はもとより、漁業生産の現状開示も積極的に行って欲しかった。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R5 流域連携 vol. 1



発行日：令和5年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆2023 矢作川感謝祭に参加しました！

当日は午後に少雨が降ったものの、多くの方が来場されていました。ご家族連れが多く見られ、開催されたワークショップの他、魚に触れる海の水族館、ジャガイモの苗の植え付けなど、“矢作川を体験する”遊びに興じられていました。矢作川流域圏懇談会は、昨年度から「矢作川に関する意見募集」を行い、会場の皆さんから矢作川に対する様々な思いを伺う事が出来ました。また、懇談会に所属する矢作川水族館、矢作川森林ボランティア協議会、おいでん・さんそんセンターなども参加し、感謝祭を盛り上げました。

日程：令和4年9月10日（日）、参加人数：10名（事務局を含む）

場所：千石公園（豊田大橋下）



開会の挨拶を行う矢作川感謝祭実行委員長

◆イベントの目的と矢作川流域圏懇談会の参加について

1. イベントの目的



矢作川流域の課題を今一度再認識するとともに、矢作川流域の自然の恩恵にあらためて感謝し、その実力と魅力を多くの人々に伝え、共感と行動へとつなげることを目的とする。

（矢作川感謝祭HP「開催目的」より抜粋）

2. 矢作川流域圏懇談会の紹介



■矢作川流域圏懇談会の活動紹介

今年の矢作川感謝祭では、出展したブースにて矢作川流域圏懇談会の活動紹介を行い、活動内容や意義を参加した人たちに知ってもらうことができました。

■矢作川への意見募集

矢作川懇談会クイズと併せて、流域地図を用いて矢作川への意見募集を行いました。会場を訪れた方々にインタビューを行い、53もの意見を伺う事ができました（複数回答あり）。

・あなたにとって矢作川とは？

→癒し、魚の住みやすい場所、釣り、生活を支える川、日常、など自然や生活・遊びに関する意見が多かったが、カップがいるという興味深い意見もありました。

・矢作川をどのように利用していますか？

→川遊び、釣り、デイキャンプ、イベント、つくしとり、など遊びの場所に関する意見が多く、自然と触れ合う遊びの場として利用されていました。

・あなたが感じる矢作川の心配事とは？

→堤防の決壊、大雨の水害、川の氾濫、など全国的に大雨による災害が増えていることもあり、水害を気にしておられる方が多いですが、アユやホタルの減少など環境問題を気にされている方もおられました。



矢作川意見募集の様子



流域圏懇談会クイズをしている様子



魚のペーパークラフト

3. 矢作川流域圏懇談会 出展状況



流域圏の一体化をめざし、以下の内容で参加しました。

■根羽村森林組合

矢作川流域の木を自分でくりぬき、かわいいペンダント作り。
木で出来たおもちゃ、大きな将棋やオセロ、弓矢の的当ての展示

■矢作川水系森林ボランティア協議会

自分で斧を使ったスギの薪割り体験

■矢作川水族館

トンボロ干潟で採取したハゼ、タイザンガザミの展示や、サメやフグに触れる水槽に
矢作川・三河湾の生き物を展示

■河畔林観察会

矢作川研究所の洲崎燈子氏による矢作川の河畔林のガイドツアー

■おいでん・さんそんセンター

活動紹介・いなか暮らし相談



木のペンダントづくり



木のおもちゃ



矢森協による薪割り体験



矢作川水族館による生き物展示



河畔林観察会

4. 矢作川感謝祭の開催風景



たくさんの方で賑わっていました。



“とよた〇〇マルシェ”と同時開催で、
様々なお店が出展されていました。



懇親会以外にも、様々な催しが行われました。

【矢作川感謝祭を通じて懇談会メンバーが感じた事】

- 流域地図を使った意見募集は、懇親会メンバー以外の方の思いが集まるので今後も行いたい
- 参加者は少なめだったが、流域の人の関係を繋ぎとめるイベントとしてはとても充実していた
- 出展者同士の横のつながりができて、スタッフとしては最も得るものが多い年になった

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R5 流域連携 vol. 2

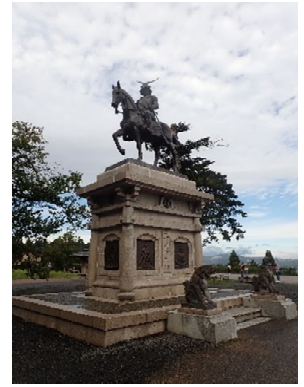


発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第15回いい川・いい川づくりワークショップ in 東北に参加しました！

「第15回」（川の日ワークショップからの通算では第25回）となる、今回の「いい川・いい川づくりワークショップ」は、東日本大震災から12年経過した“東北”での開催となりました。今大会は、エクスカーションや発表・公開討論会等の選考を通し、3日間にわたる地域、世代、立場を越えた出会い、交流を目指しています。矢作川流域圏懇談会は、口頭発表やグループワーク、ポスターセッションを通して、他団体との交流および全国へPRを行いました。実行委員より“川がつかなく山から海まで”を本当に学び合っていたきたいという想いを込めて、「山から海まで学び合いま賞」をいただきました。



日程：令和5年9月30日（金）～10月2日（日）

場所：東北大学（青葉山キャンパス）青葉山 commons

◆イベントの経緯と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

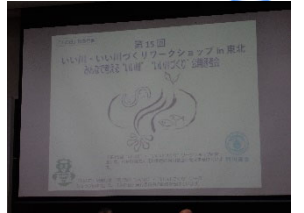
1. 経緯とイベントの内容

■経緯（HPより抜粋）

私たちがめざす川や水辺はどんな姿なのか、私たちにとって“いい川・水辺”とはどんなことなのか、各団体が事例や取り組み、思いを持ち寄り、発表、議論することにより、少しでも“いい川・いい川づくり”のビジョン、イメージの共有につながれば、やがては日本中に個性豊かな愛着の持てる川や水辺が出現するとの思いから開催されました。

■主なイベント内容

- ◇エクスカーション（仙台の川や海とまちの姿、人の暮らし、その過去・現在・未来を訪ねる3コース）
- ◇全体発表会（会場での全応募31団体が1団体3分で活動内容等を発表する）
- ◇テーブル選考（一次選考。6グループに分かれ、選考員を中心に議論を行い、2団体を決定する）
- ◇復活選考（ポスターセッション型式の交流とともに、新たな視点から5件を選考する）
- ◇全体選考（二次選考。合計17団体の中から、議論の上、選考員の投票により選定する）
- ◇公開討論（最終選考。別の選考員がさらに議論を行い、入選団体の中からグランプリを決定する）
- ◇表彰式（グランプリ、入賞、入選、“いい川”技術賞、森清和賞、広松伝賞を表彰する）



2. 9月30日（金）エクスカーション（現地視察）について

【仙台の川や海とまちの姿、人の暮らし、その過去・現在・未来を訪ねる3コース】

■Aコース

町の礎を築き潤した川 四ツ谷用水めぐり（第14回グランプリ）

◇コース概要

仙台駅～宮城県工業用水道沈砂池～四ツ谷堰～聖沢掛樋～大崎八幡宮～四ツ谷用水本流沿い散策～支倉堀（東北大学歯学部構内）

◇ご案内

村上英寛氏（四ツ谷用水案内人）



■Bコース

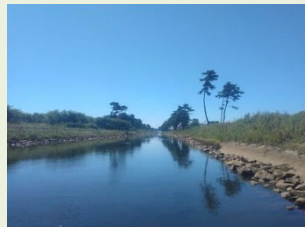
貞山運河（新堀）～東日本大震災の津波災害から12年目の現状～

◇コース概要

荒井駅～震災遺構荒浜小学校前～深沼海岸～海岸公園センターハウス～貞山運河に沿って散策～カントリーパーク新浜～新浜みんなの家

◇ご案内

貞山運河倶楽部



■Cコース ※中止

広瀬川沿いの大地・まちの歴史とグリーンインフラ散策

◇コース概要

川内駅～東北大学川内キャンパスの雨庭～千貫橋～千貫沢遊歩道～広瀬川沿い散策～500万年前の貝化石層～仙臺緑彩館の雨庭～大橋～竜の口渓谷と経ヶ峯大露頭



3. 参加団体の紹介 グランプリ・準グランプリ受賞団体（一部抜粋）



【川で活動している31団体が東北大学の青葉山キャンパスに集結しました！】

■矢作川流域圏懇談会

～流域はひとつ、運命共同体～

山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアーの開催報告やパネルを用いて13年間の歴史について発表した。

■国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部帯広河川事務所 ★グランプリ受賞

～十勝川の伐採木が動物たちのエサに！～

河川工事や維持管理上の支障になる樹木を伐採し、地元の動物園に提供することで、動物たちのエサとして有効活用している。

■NPO法人北九州・魚部 ★準グランプリ受賞

～人と温泉と生き物と～亀川温泉発！生き物好きによる「泉都」別府の新たな魅力の発掘！～

市街地化と暗渠化した今も水が流れる「温泉の溝」に、40℃の高温を好む「オンセンゴマツボ」を発見！

■一般社団法人 SAVE IWATE ★広松賞

～川のタカラモノ「くるみ」を使って東北の復興へ～

北上川に生えるクルミの実や樹皮を活用した商品を作製し販売している。東日本大震災の被災者の雇用を生み出した。

■玉一アクアリウム ★森清和賞

～明石川と共に生きる～

小学生が明石川の生き物を1年間でモニタリング調査や外来種の駆除、在来種の保護、オリジナル図鑑作りを行った。

■北上川下流河川事務所 ★いい川技術賞

～石巻かわまちづくり～川とともに生きる新しい石巻～

堤防天端空間と建築の一体的整備によって川とまちを積極的に結びつけ、新たな賑わいの拠点を創出した。

4. いい川・いい川づくりワークショップ当日の様子



【10月1日（土）全体発表会・テーブル選考について】



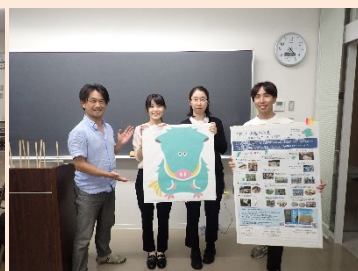
全体発表会では、事務局の松田氏とはぎぼうの掛け合いを行い、懇談会をPRしました。



テーブル選考では、コーディネーターを中心にディスカッションを行い、選考委員により5団体の中から2団体が選ばれました。



懇談会は8票のうち2票が入り、テーブルの中で3位という結果に終わりました。



入選はできませんでしたが、懇談会を多くの方にPRすることができました。

【10月2日（日）復活選考・全体選考・公開討論・表彰式について】



ポスターセッションによる復活選考を行いました。残念ながら、懇談会は復活できませんでした。



次世代を担う大学生にも懇談会の紹介をしました。



全体選考・公開討論会において、入選した17団体についての議論を行い、グランプリを決定しました。



表彰式にて、国土交通省北海道開発局 帯広開発建設部 帯広河川事務所がグランプリに輝きました。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R5 流域連携 vol.3



発行日：令和5年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第10回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、三河湾の環境再生に向けた機運を高めることを目的として、愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題と、矢作川に関する環境トークショー、「豊橋うなぎ」を使ったおむすびの試食を行いました。また、サテライト会場では地引網体験やアサリのつかみ取りを行い三河湾の生き物に親しんでもらいました。

日程：令和5年10月14日（土） 10：00～16：00

場所：メイン会場 LaLaGran（田原市 豊橋鉄道渥美線三河田原駅前）
サテライト会場 白谷海浜公園



出展されたブース会場

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容

■目的（チラシ、HPより一部抜粋）

多くの県民の皆様が三河湾に関心を持っていただくため、田原市の豊橋鉄道渥美線三河田原駅前において、「第10回三河湾大感謝祭」を開催しました。

■主なイベント内容

- ◇三河湾〇×クイズ
- ◇柳田はるかさん、海洋ごみ音楽隊ゴミンソクさんによるライブ演奏
- ◇おさかな芸人ハットリさんによるお笑いライブ
- ◇岸壁幼魚採集家の鈴木香里武さんと竹島水族館の小林館長の三河湾環境トークショー
- ◇セレモニー（主催者・共催者挨拶）



流域圏懇談会のブース

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況

■矢作川流域圏懇談会

矢作川流域圏懇談会の活動紹介、動く木のおもちゃの展示

イベントには流域圏懇談会会員の4団体が参加しました。

■愛知県水産試験場

海の生きもの、試験研究内容パネル展示

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

三河湾とシーブルー事業の紹介

■愛知県環境局

愛知県環境局の取組を紹介



流域圏懇談会の根羽スギを使った木工の様子



愛知県環境局の展示の様子



三河港湾事務所の展示の様子



水産試験場での生き物展示

3. 三河湾大感謝祭での活動



■矢作川アンケートの結果

前回の矢作川感謝祭に引き続き、今回も矢作川へのアンケートを実施しました。

小さなお子さんからご年配の方、近くに住まれている方、遠方からお越しの方など様々な方から、全部で40のご意見を伺うことができました。

・あなたにとって矢作川とは？

⇒「命に直結する大切なもの守るべきもの」や「大きい川」、「岡崎市を通過すると通る川」といった、生活に関わる意見が多くありました。また、「自然観察の場」や「生物の豊かな場所」という自然に関する意見や、「アユが取れる（釣り・つかみ取り）」という遊びに関する意見もあり、自然を身近に感じることでできる場所として捉えられているようです。

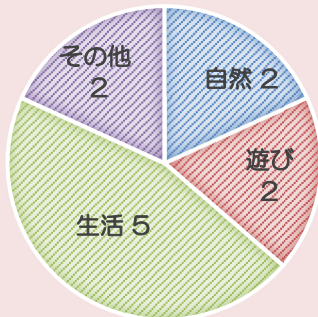
・矢作川をどのように利用していますか？

⇒「自然観察」や「生き物が多い」、「川魚の鮮度がいい」など自然が豊かという意見のほか、「バーベキュー」「生物採取（クワガタ・魚・シジミ）」という遊びやレジャーに関する意見が多く、矢作川の利用は生活の一部となっているようです。

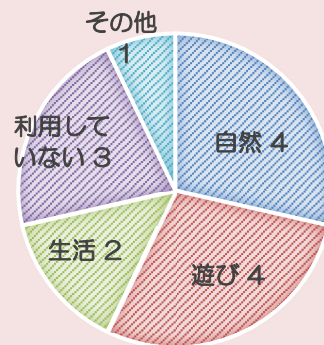
・あなたが感じる矢作川の心配事とは？

⇒「津波」「雨天時の増水」「洪水」という河川の氾濫や、「水質汚染」「河床林の減少」「生態系の変化」という環境問題を多くの方が気にされていました。また「明治用水」という今年地元の大きな関心事となった生活に関する話題を挙げた方もおられました。

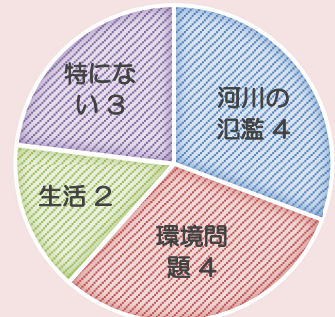
あなたにとって
矢作川とは？



矢作川をどのように
利用していますか？



あなたが感じる
矢作川の心配事とは？



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

- ・途中天気が崩れたにも関わらず、多くのお客さんが訪れていた。三河湾に関する〇×クイズや、魚に関するトークショーに多くの方が参加されており、自然環境や生き物の大切さへの意識の高まりを感じた。
- ・出展側も、海のごみや海底の泥問題等を取り上げるブースが多くあり、多くの方が問題を意識し、実際に影響を受けているのだと感じた。これらに“流域”という考えを浸透させるよう、参加者に響く出展を行いたいと感じた。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

